

# 長崎県感染症発生動向調査速報

平成26年第2週 平成26年1月6日(月)～平成26年1月12日(日)

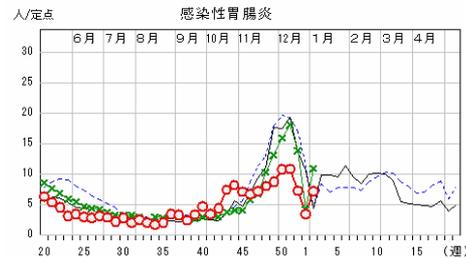
定点報告疾患(定点当たり報告数の上位3疾患)の発生状況

## (1) 感染性胃腸炎

第02週の報告数は316人で、前週より165人多く、定点当たりの報告数は7.18であった。

年齢別では、1歳(50人)、10～14歳(46人)、3歳(29人)の順に多かった。

保健所別の定点当たり報告数は、県北保健所(12.00)、県央保健所(11.50)、対馬保健所(8.50)が多かった。



## (2) インフルエンザ

第02週の報告数は433人で、前週より162人多く、定点当たりの報告数は6.19であった。

年齢別では、10～14歳(69人)、20～29歳(41人)、30～39歳(41人)の順に多かった。

保健所別の定点当たり報告数は、県北保健所(13.25)、佐世保市保健所(8.00)、長崎市保健所(7.00)が多かった。

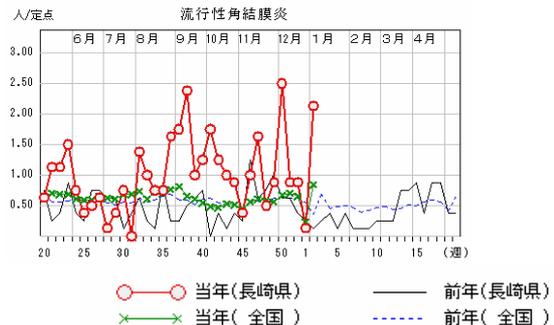


## (3) 流行性角結膜炎

第02週の報告数は17人で、前週より16人多く、定点当たりの報告数は2.13であった。

年齢別では、50～59歳(4人)、30～39歳(3人)、70歳以上(3人)の順に多かった。

保健所別の定点当たり報告数は、佐世保市保健所(5.00)、西彼保健所(3.00)、長崎市保健所(2.67)が多かった。



## トピックス・季節情報

### 【感染性胃腸炎】

第2週の感染性胃腸炎の報告数は前週より165人増加して316人となり、定点当たりの人数は7.18でした。長崎県下すべての地区から散発的に報告が上がっています。

ウイルス性感染性胃腸炎は本格的な流行シーズンに入っていますので、今後の動向に注視し、手洗いの励行を心がけましょう。

感染性胃腸炎は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。年齢別に見ると、報告の多くは1～2歳の乳幼児が占めています。原因はロタウイルス、ノロウイルスをはじめとするカリシウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。

原因微生物のうち、ロタウイルスについてはすでにワクチンが認可されていますので、予防することが出来るウイルスです。特に、小さいお子さんがいらっしゃるご家庭では、保護者の方が手洗いの励行、体調管理や体調の変化に心掛けてあげるなどして感染防止に努め、早目に医療機関を受診させてあげるようにしましょう。

### 【インフルエンザ】

長崎県における第2週の報告数は前週より162人増加して433人となり、定点当たりの人数は6.19でした。長崎県下すべての地区から報告が上がっています。県北地区13.25は注意報レベル「10」を超えていますので今後の動向に注意していく必要があります。

例年、地方におけるインフルエンザの流行は年末年始の帰省客によって都市部より持込まれたウイルスに端を発して、本格的な流行が始まり、1月下旬～2月上旬に流行のピークを迎えます。年齢別にみると、10代の学生が多く、学校での流行がみられます。新学期が始まり、学校等で人と接する機会も多くなりますので感染予防を心がけましょう。

インフルエンザには抗インフルエンザ薬がありますが、予防にはワクチン接種が有効な手段の一つです。小さいお子さんや高齢者はもとより、受験生の方も体調管理に十分に気をつけましょう。また、外出からの帰宅時のうがい・手洗いの励行や、マスクなどによる「咳エチケット」で積極的な感染防止に努めましょう。

【流行性角結膜炎】

長崎県における第2週の報告数は前週から、一気に16人増加して17人で、定点当たり報告数は2.13でした。佐世保市、長崎市、西彼地区、および県南地区の眼科定点から報告がされています。

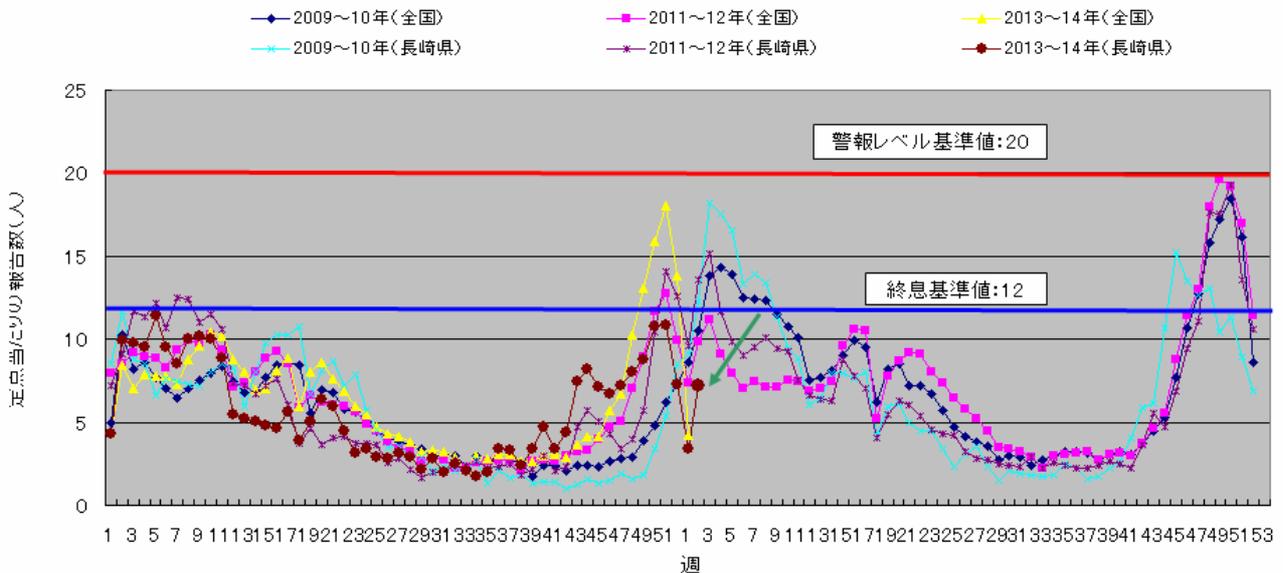
本感染症はアデノウイルス8型が原因となることが多く、アデノウイルス19型や37型によっても起こることが知られています。小児から老人まで幅広く罹患します。

流行性角結膜炎は、涙液、眼脂で汚染された指やタオル類からの接触感染により伝播します。眼分泌物はティッシュペーパーなどで除去して、直接手で触れないように気をつけましょう。手洗いを励行し、洗面器、タオルを共有せず、触れた場所をアルコール綿でよく拭くなどして、感染防止に努めましょう。

**トピックス：感染性胃腸炎に注意しましょう。**

昨シーズンは、全国的に感染性胃腸炎が流行し、過去10年で平成18年に次ぐ高い水準の患者数を示しました。本県においては、第52週から報告数が減少していましたが、未だ高い数値を維持しています。

例年10月から11月にかけて流行の立ち上がりが見られ、12月中旬頃がピークとなる傾向にあることから、11月20日に、厚生労働省より「感染性胃腸炎の流行に伴うノロウイルスの予防啓発について」の通知が出ました。今後の動向に注視し、手洗いの励行に努めましょう。



< ノロウイルスに関するQ&A >

(参考) 厚生労働省ホームページ ノロウイルスに関するQ&A

<http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html>

**トピックス：インフルエンザの流行に備えましょう。**

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを病原とする気道感染症です。他の原因によるかぜ症候群より重症化しやすい傾向がありますので注意を要します。1～3日間の潜伏期間のあとに38 以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛などの全身症状が突然現れます。これに続いて咳、鼻汁などの上気道炎症が起こり、約1週間ほどで軽快するのが典型的なインフルエンザの症状です。呼吸器、循環器等に慢性疾患を持つ方は、その病状が悪化することもあります。小さなお子さんの場合、熱性痙攣や気管支喘息を誘発することもあります。

インフルエンザの流行パターンを全国レベルでみると、例年11月下旬から12月上旬頃に流行が始まり、年が明けて1～3月頃に患者数のピークを迎えます。ところが、大都市を除く地方では年末年始の帰省時期後の新年第1週から流行が始まり、以後患者数が急増して1月下旬から2月上旬にかけてピークに達する傾向にあり、本県も同様の流行パターンで推移しています。基本的には4～5月にかけて患者数が減少していきますが、ここ数年は春先に小規模な流行が再燃する傾向にあります。

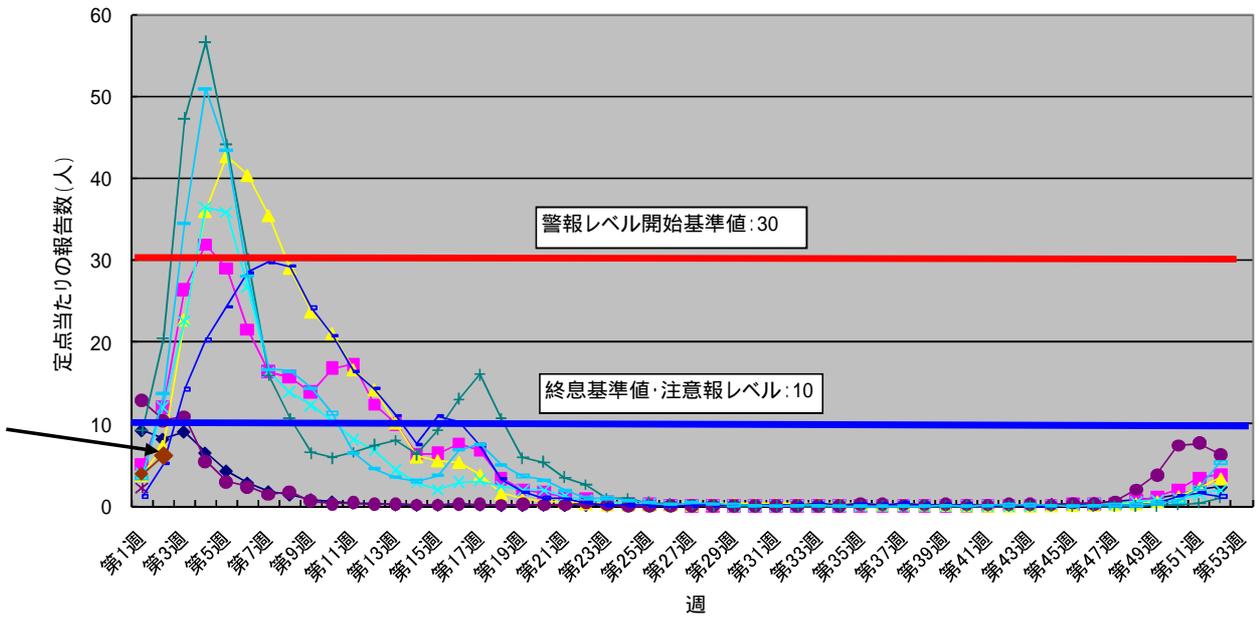
感染経路は、咳やくしゃみの飛沫による飛沫感染と、飛沫等に含まれるウイルスが付着した手指で自分の眼や口、鼻を触ることによって成立する接触感染があります。

予防には、ワクチン接種をはじめ、日頃からしっかりと休養をとり、バランスの良い食事を摂ることで免疫力を維持することが重要です。また、上記のような経路で感染が成立するため、手洗いの励行、外出先から帰宅した際のうがいの徹底なども有効です。

当センターに搬入された、今シーズン3回目のインフルエンザウイルスサーベイランスの検体から、インフルエンザウイルスB型およびA/H3型の遺伝子が検出されました。

本県においては、ほぼ全ての地区で報告数が増加傾向にあり、それに伴い学級閉鎖や学年閉鎖を行う施設も増えてきています。積極的な感染防止に努めましょう。

◆ 2010年(全国)    ◆ 2011年(全国)    ◆ 2012年(全国)    ◆ 2013年(全国)    ◆ 2014年(全国)  
 ◆ 2010年(長崎県)    ◆ 2011年(長崎県)    ◆ 2012年(長崎県)    ◆ 2013年(長崎県)    ◆ 2014年(長崎県)



インフルエンザにおける過去5年間の推移

<今冬のインフルエンザ総合対策について>

(参考) 厚生労働省ホームページ平成25年度今冬のインフルエンザ総合対策について

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/influenza/>

## 全数届出の感染症

- 1 類感染症：報告はありませんでした。  
 2 類感染症：結核患者、男性（80代・1名、90代・1名）計2名と  
 女性（60代・1名、80代・1名）計2名、合計4名の報告がありました。  
 結核無症状病原体保有者、男性（10歳未満・1名、10代・1名）計2名の報告がありました。  
 3 類感染症：報告はありませんでした。  
 4 類感染症：報告はありませんでした。  
 5 類感染症：全数把握患者の報告はありませんでした。

## 定点把握の対象となる5類感染症

### (1) 疾病別・週別発生状況 (第49～2週、12/2～1/12)

疾患名	定点当たり患者数					
	49週	50週	51週	52週	1週	2週
	12/2～	12/9～	12/16～	12/23～	12/30～	1/6～
インフルエンザ	0.30	0.54	2.19	5.30	3.87	6.19
RSウイルス感染症	1.27	1.34	1.39	1.39	0.95	1.23
咽頭結膜熱	1.14	1.18	1.20	0.86	0.68	0.77
A群溶血性链球菌咽頭炎	1.30	1.75	1.84	1.02	0.64	1.61
感染性胃腸炎	8.75	10.77	10.84	7.27	3.43	7.18
水痘	2.36	1.86	2.14	2.05	2.11	2.07
手足口病	1.16	1.27	1.30	0.80	0.23	0.30
伝染性紅斑（リンゴ病）						
突発性発しん	0.30	0.52	0.48	0.27	0.14	0.52
百日咳			0.02	0.02		0.09
ヘルパンギーナ	0.05					0.02
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.95	0.64	0.32	0.48	0.39	0.36
急性出血性結膜炎			0.25	0.13		
流行性角結膜炎	0.88	2.50	0.88	0.88	0.13	2.13
細菌性髄膜炎						
無菌性髄膜炎	0.08			0.08		
マイコプラズマ肺炎	0.08	0.17	0.17	0.17		0.25
クラミジア肺炎（おたふく病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）						0.08

### (2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第2週、1/6～1/12)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管轄別)										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	6.19	8.00	7.00	4.67	3.50	4.10	5.75	13.25	4.00	6.33	4.00
RSウイルス感染症	1.23	0.17	2.20		1.25	0.67	1.80	3.67		0.50	0.50
咽頭結膜熱	0.77	1.00	0.90		0.50	1.67	0.80	0.67			0.50
A群溶血性链球菌咽頭炎	1.61	0.67	2.10		1.00	3.67	3.00	1.33			0.50
感染性胃腸炎	7.18	5.83	6.80	1.50	8.25	11.50	5.20	12.00	3.75	7.00	8.50
水痘	2.07	2.33	3.10		1.25	2.67	2.40	2.33		0.50	2.50
手足口病	0.30		0.10			0.83	0.80	0.33	0.50		
伝染性紅斑（リンゴ病）											
突発性発しん	0.52	1.17	0.50			0.67	0.40	1.00			1.00
百日咳	0.09						0.80				
ヘルパンギーナ	0.02					0.17					
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.36	0.17	0.60	0.50			1.60				
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎	2.13	5.00	2.67		3.00		1.00				
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎	0.25					1.00		2.00			
クラミジア肺炎（おたふく病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0.08					1.00					